平成 22 年 10 月 1 日
沖縄県病害虫防除技術センター所長

平成 22 年度病害虫発生予察特殊報第2号

1 病　害　名　：オクラ半身萎凋病

2 病　原　菌　：*Verticillium dahliae*

3 対象作物名　：オクラ

4 発 生 地 域　：沖縄県八重瀬町、豊見城市

5 発生確認の経緯

平成 22 年4月、沖縄県八重瀬町の露地栽培オクラ(品種:ブルースカイ)において、葉の黄化・萎凋症状を呈しその後落葉、枯死する株が認められた(図1～3)。株の導管部は褐変しており(図4)、導管褐変部から菌の分離を行った結果、分生子柄から分枝が輪生し、先端に塊状の分生子を生じる *Verticillium* 属菌が分離された(図5)。分離菌を用いて接種試験を行ったところ、病徴が再現され、接種菌が再分離された。また、分離菌を那覇植物防疫事務所に送付し同定を依頼したところ、本菌は *Verticillium dahliae* であることが明らかになった。

オクラにおける本病の発生は、国内では昭和51年に愛知県で初めて報告され、その後北海道、東京都、高知県、群馬県など各地で報告されているが、沖縄県では今回初めて確認された。平成 22 年7月までに県内各農業改良普及センター及び農林水産振興センター農業改良普及課、農業協同組合と共同で発生調査を行ったところ、さらに八重瀬町の1圃場及び豊見城市の1圃場において本病の発生が確認された。

6 病徴・被害・伝染等

下葉から黄化や萎凋がはじまり、葉縁が巻き、徐々に上部へ進展する。やがて下葉から落葉し、立枯れを起こす。茎や葉柄の導管部は褐変する。

本菌は罹病作物体上で多数の微小菌核(図6)を作り、これが土壌中に長年月残り、伝染源となる。病原菌は、根から作物に侵入し、導管を通して作物の全身に広がる。発病適温は23～28℃である。多犯性で、ナス科、ウリ科、アブラナ科ほか多くの植物に病原性を示す。

また、本菌による種子伝染は、ナス、トマト、ヒマワリなど多数の植物で報告されているが、オクラにおいては確認されていない。

7 防除対策

(1) 発病株は感染源となるため、見つけ次第抜き取り、圃場外に持ち出し適切に処分する。
(2) 農機具や長靴などに付着した汚染土壌により感染が拡がるおそれがあるため、発病を認めた圃場で使用した農機具等はよく洗浄した後使用する。
(3) 土壌伝染性病害であるので、前作に発病を認めた圃場では薬剤等による土壌消毒を行う。
(4) 連作を避け、本菌に対し感受性の低いイネ科作物との輪作を行い土壌中の菌密度を低く維持する。

8 参考文献

日本植物病害大事典 (1998) 岸國平編　全国農村教育協会
植物防疫(1983) vol.37、no.3、89～99p、日本植物防疫協会

図1　発生圃場

図2　罹病株

図3　黄化した葉

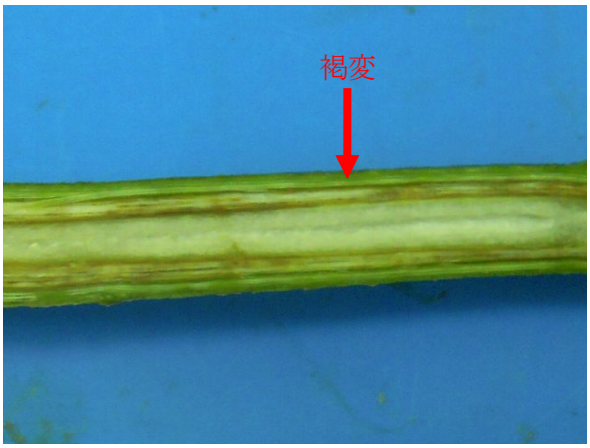

図4　茎断面

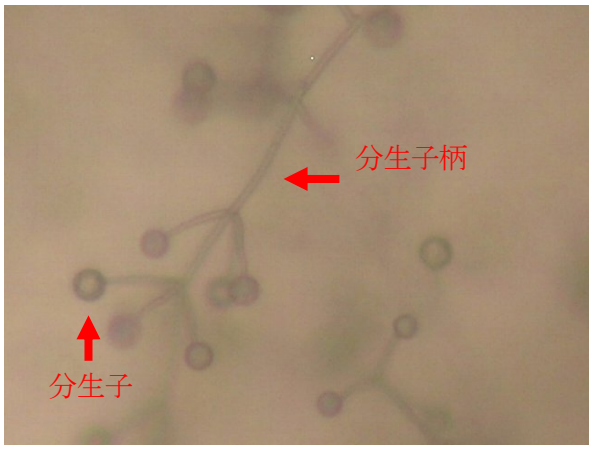

図5　*Verticillium dahliae* の分生子柄と塊状の分生子

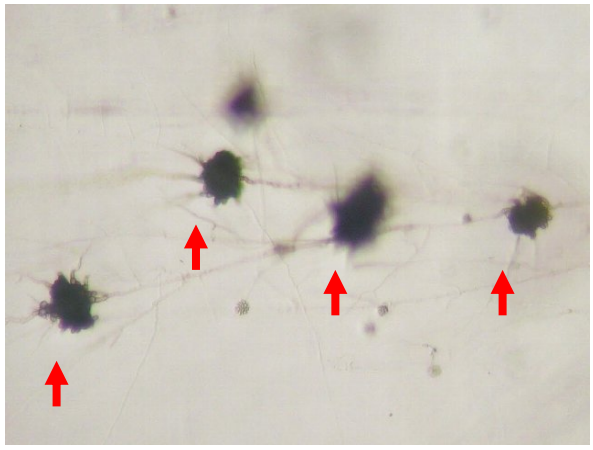

図6　培地上の微小菌核（矢印）

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL ：　098-886-3880、098-886-0227

ホームページアドレス　：　http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119